

4 寺と屋敷

※題字／森川芳聲

もくじ

- 2 巻頭言 フィリピンの英雄 …… 山口 秀範
- 4 「社中だより」 …… 住吉 優
- 5 皇居勤勞奉仕 …… (福岡中経協)
- 6 「偉人レポート」
平成に命を賭した自衛官 —
「事に臨んでは危険を顧みず」 …… 日下部晃志
- 8 グローバリズム対
ナショナリズム二〇一九 …… 木村 政信
- 9 民間人から見た教育現場⑤ …… 小田村直昌
- 10 三十八年間の
教員生活を振り返って② …… 穴井 福代
- 11 ミャンマーと日本① …… 守田 剛
- 12 私が出会いから学んできたこと、
行なってきたこと(最終回) …… 高原 朗子
- 13 立派な父と不良の息子の物語④ …… 廣木 寧
- 14 TERAKOYAふおとればーと
- 15 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 16 歌碑のこころ(6) 編集余録 余録の余録



福岡市西区唐泊の東林寺前庭

歌碑のこころ

からとまり能許の浦波
立たぬ日はあれども家
に恋ひぬ日はなし

唐泊から間近に見える能古島の浦に波立たぬ日はあっても、
我が家を恋しく思わない日はない。

※詳しい解説は16頁に掲載しています。



フィリピン英雄

代表世話役 山口 秀範

セブ島訪問

一月下旬の数日、寒風を逃れてフィリピンのセブ島を訪問しました。福岡中小企業経営者協会の視察ツアーに団長として参加したのです。セブ島を二十数年前に訪れた時の印象は鄙びた海辺の行楽地に過ぎませんでしたが、すっかり見違えるほど高層ホテルが建ち並び、近年のアジア諸国の発展を反映しています。

マニラで乗り換えた国内便で、セブ島に隣接するマクタン島の空港に到着します。一五二一年、この島で世界史に刻まれる事件が勃発しました。「世界一周航海中のマゼランが土人に襲われて非業の死を遂げた」と中学の教科書で習った記憶がありますが、その「土人」とは、ここマクタン島に勢力を張ったラプラブという名の部族長のことでした。

スペイン王への服従、キリスト教への改宗を強制するマゼランに対して、セブ島各地の首長たちは抵抗すら出来ませんでした。一人ラプラブのみは勇敢にも反旗を翻し、周到に準備してマゼラン軍を打ち破ったのです。

島内には立派な銅像が建ち、ヨーロッパ人のアジア侵略に立ち向かった最初の英雄として顕彰されています。近海で採れる高級魚にもラプラブの名が冠されています。

支配者の言葉であるスペイン語です。リサルは固有の言語・タガログ語も操りましたが、改めて書き残すにはスペイン語の方が馴染み易かったのでしょうか。内容もリサルが自分の内面、死をどう受け止めるかに集中しつつ祖国への帰依を綴っているのに対し、吉田松陰は冒頭の歌

身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂

が象徴する通り、自らの思いを後に続く人々に遺した志の継承を願ったのです。

『留魂録』にも「春種し、夏苗し、秋刈り、冬蔵す」と、穀物に例えて「四時(季節・人生)の順環」を述べ、短くともそれなりに完結した一生もあると記した箇所があります。数え年三十歳にして生涯を閉じんとする葛藤を経て、死生を超越する工夫の末に立ち至った心境なのでしょう。

このあたりは、フィリピンの土に帰ろうとしたリサルに相通じるものを感じます。しかしここでも、「同志の士其の微衷を憐れみ継紹の人あらば」と後を託し得る人々へと松陰の心は向かっているのです。また『留魂録』には取り調べの経緯とそれに伴う自身の心跡変化が克明に綴られています。加えて松陰が獄中で知った有為の人材の紹介にも紙幅を割いています。これなども師亡き後の門人たちの活動を後押しする気持ちの表れでしょう。

おり、昨年ドウテルテ大統領は、マクタン空港を「ラプラブ空港」と改名した由西洋の価値観至上の歴史は、ようやく各地で修正されようとしています。

ホセ・リサルとは



ホセ・リサル (1861 - 1896) (ウィキペディアより)

今回の旅では最大の都市マニラを素通りしてしまいましたが、市街の中心部に「国民的英雄」ホセ・リサルを記念する「リサル公園」があります。

ホセ・リサルは一八六一年、ルソン島の小さな村で生を享けました。中国系スペイン系の血も入ったフィリピン人です。当時はスペインの植民地支配の只中で厳しい制約下にありました。

幼少期から多彩な才能を発揮し、やがてマドリードの大学に留学して医学と哲学を修めます。更に欧州諸国で学ぶ頃には二十以上の言語に通じていたそうです。その合間に祖国を思う小説を次々と

こう見て来ると吉田松陰を「日本のリサル」と呼ぶことは随分的外れに感じられます。リサルが語りかける相手は祖国の大地そのものでしたが、彼の遺志を現実に引き継ぐ若者は現れませんでした。一方で『留魂録』が日本を護ろうとする人々を鼓舞せんと書かれたことは明らかでしょう。

我が国の幸運

「書きつけ終りて後」に詠まれた五首のうち二首、

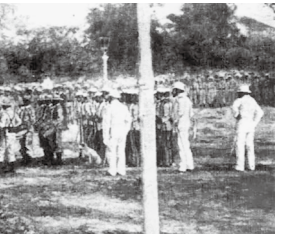
討たれたる吾れをあはれと見ん人は君を崇めて夷払へよ
七たびも生きかへりつつ夷をぞ攘はん
こころ吾れ忘れめや

にも吐露されている通り、松陰にとって死は永遠の休息どころか、また生れ変わって来て国事に奔走するまでの一時休憩に過ぎなかつたでしょう。

この強靱な精神には感服の他ありませんが、松陰にこのような歌を詠ませた背景には、師の志を仰ぎ、継承に努める若者が存在したことを忘れてはなりません。松陰の言動があまりにも尖鋭化し、弟子たちの多くは師から遠ざかった時期もありましたが、死を賭しての実践を通じて若き志士たちを鼓舞して、遂には明治維新を成就させたのです。

欧米列強の脅威を凌ぎ一人我が国のみは植民地化を免れることが出来ました。

発表しますが、それが植民地支配への批判と見做され当局から危険人物視されるようになりま



処刑場 (現 リサル公園) (ウィキペディアより)

す。二度目の外遊の際に明治時代の日本も訪れ、その近代化と暖かな人情に好印象を持ったとのこと。やがて武装蜂起によつて独立を達成しようと目論むグループも現れて、フィリピン国内は次第に不穏な空気に包まれます。リサルは穏健な改革を目指していましたが、その影響力を恐れる植民地当局は遂に彼を拘束して一八九六年暮れに公開処刑しました。三十五歳の生涯でした。

ホセ・リサルの死から二年後、三百年余に亘つたスペインの統治は終わりを告げました。しかしそれは独立とは程遠く、単に支配者がアメリカへと移つたに過ぎず、真の独立までにはまだ半世紀待たねばならなかつたのです。

リサルの遺書

処刑の前日リサルは「わが最後の別れ」と名付けた遺書を獄中で認めました。そしてそれは愛用の卓上アルコール灯の僅かな隙間に隠されて、遺品として妹の

また江戸時代の学問興隆によつて誇るべき歴史と伝統を民族として共有出来、とりわけ国学や水戸学などが幕末の志士たちの精神を鼓舞しました。そして何よりそれらをすべて母国語である日本語で読みかた語れたことなども、フィリピン始め他のアジア諸国の百五十年前の惨状を振り返れば、我が国の幸運と、それを呼び込んだ先人たちの労苦に感謝あるのみです。

次の御代に向けて

ホセ・リサルの祖国フィリピンは、三百五十年を超える植民地支配から独立して七十年、未だ国作りの途上であり貧困や治安悪化など難問を抱えています。しかし街には子供たちの笑顔が溢れて、将来の発展を予感させます。

一方長い歴史を誇る我が国は、敗戦による占領統治を僅か六年半受けただけで、その後遺症からまだ完全には脱却出来ていません。真の独立国の要件は、①国土の自主防衛、②子女の国民教育、③祖国を護つた英霊の顕彰、の三項目を他国の干渉をはねのけて実施することにありと心得ます。

平成を終える今、残念ながらも引の項目についても確信を持つて次世代へ引き渡せる状況にありませんが、手を拱いているわけには行きません。まずは懸案の憲法改正を成し遂げて、独立の気概漲る国民を輩出する新しい御代の出発点としたいものです。

手に渡つた後で発見されました。

さようなら愛する祖国、
懐かしい太陽の地よ
東洋の真珠、
今は無き我が楽園よ
喜んで君に捧げよう、
貧しきやつれたこの命を

から始まる長編詩の如き遺書の中で、「東海の寶石」と呼ぶに相応しいフィリピンのために紅い血を流すことは少年の頃からの夢、憧れだったと告白しています。そしてやがては「祖国に開放が訪れるよう祈り」つつ「苦しみの日々を離れ、休息することに感謝します」と祖国の土に帰る安らぎを歌つたのです。

「国民的英雄」を偲ぶ公園を四半世紀前に訪れた折に、リサルが囚われていた牢獄の壁に「日本のリサル」と紹介があつて、吉田松陰の『留魂録』の写し

が掲げてあつたのには驚きました。確かに、若くして牢に繋がれ志半ばで刑場の露と消えたこと、刑執行の前日まで思いを記したことなど共通点も多いからでしょう。しかし両者の間に本質的な相違のあることを知らねばなりません。

『留魂録』

『留魂録』は安政の大獄で江戸伝馬町の獄に繋がれた松陰が、打ち首となる間際に一昼夜をかけて書き留めたものです。まず『留魂録』が当然日本語で綴られているのに対して、「わが最後の別れ」は

草と共に生きる

株式会社 オーレック <http://www.orec-jp.com>
本社 〒834-0195 福岡県八女郡広川町日吉548-22 Tel:0943-32-5002(代) FAX:0943-32-6551

私たちの原点である草をモチーフにしたロゴです。大地から力強く生えていく草には、農業・緑化・環境づくりを通じ、人々の安心・安全を願うORECの思いが込められています。

“あちこちde寺子屋”のご案内

*ご案内しているものは変更する場合がありますので、事前にご確認ください。見学ご希望の方は寺子屋モデルにご相談ください。あちこちで寺子屋が開催されています。皆さんも寺子屋に参加してみませんか。「寺子屋」がお勧めする会合も併せてお知らせします。

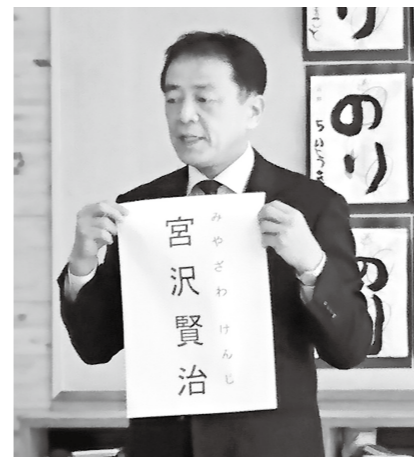
| | | | |
|--|---|--|--|
| <p>どなたでも ご参加 いただける 寺子屋</p> | <p>小倉de寺子屋 小倉商工会館 参加費…一般2,000円 …学生 500円 (年間会員制あり)</p> <p>●4月19日(金) ●5月17日(金) ●6月21日(金) ※18:30~ 「古事記(中)」(講談社学術文庫) 講師:山口 秀範</p> <p>お申し込み 田村こすえ 090-2515-2039</p> | <p>寺子屋de日本書紀★ 寺子屋モデル会議室 参加費…1,000円</p> <p>●4月 2日(火) ●5月14日(火) ●6月 4日(火) ※7:30~ 「日本書紀(2)」(岩波文庫)</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p> | <p>小柳陽太郎先生に 学ぶ会 天神正友ビル 参加費…1,000円</p> <p>●4月 9日(火) ●5月14日(火) ●6月11日(火) ※18:30~ 「日本のいのちに至る道」 (小柳陽太郎著作集)</p> <p>お申し込み 石村萬盛堂 092-291-2225</p> |
| <p>森の案内所偉人伝 森の案内所 (福岡市東区香住ヶ丘) 参加費…一般1,000円 …学生 500円</p> <p>●5月22日(水) ※10:00~ 講師:山口 秀範 演題:白洲次郎 ※偉人伝講話の場です。</p> <p>お申し込み 江口誠子 090-3467-4717</p> | <p>続・ししまの道 寺子屋モデル会議室 参加費…1,500円</p> <p>●4月23日(火) ●5月21日(火) ●6月19日(水) ※16:00~ ◆創作短歌を批評する会です。 短歌を作ってご参加下さい。</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p> | <p>寺子屋 激突!!(東京) 参加費…一般2,000円 …学生1,000円</p> <p>●5月18日(土) ※14:00~ 講師:山口 秀範 演題:福沢諭吉</p> <p>お申し込み 武田有朋 mail: terakoya@ville.jp</p> | <p>中経協朝勉強会★ 福岡中小企業経営者協会 会議室(エルガーラ6階) 参加費…1,000円</p> <p>●4月17日(水) ●5月15日(水) ●6月19日(水) ※7:30~ 「講孟節記(上)吉田松陰著 (講談社学術文庫)</p> <p>お申し込み 福岡中小企業 経営者協会 二宮 092-753-8877</p> |
| <p>其儘会(きじんかい) 水鏡天満宮(福岡市中央区) 参加費…一般1,000円 …学生無料</p> <p>●4月21日(日) 15:00~ ●5月25日(土) 16:00~ ●6月15日(土) 16:00~ 「氷川清話」勝海舟述 (講談社学術文庫) 「全訳 源氏物語(1)」(角川文庫) ※参加者は20代に限られます。</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p> | <p>読諭会(どくゆかい) 寺子屋モデル会議室 参加費…1,000円</p> <p>●4月16日(火) ●5月28日(火) ●6月18日(火) ※10:30~ 「福翁自伝」福沢諭吉著 (講談社学術文庫) ※認定講師の研修場です。</p> <p>お申し込み 寺子屋モデル 092-718-2080</p> | <p>寺子屋関西 茨木神社参集殿2階 (大阪府茨木市) 参加費…500円</p> <p>●毎月第4土曜日 (8月と12月は休み) ※17:30~19:00 ※「偉人伝」の研究発表が主となる 場です。</p> <p>お申し込み 廣尾大輔 080-4971-8257</p> | <p>★印の勉強会 (読書会)には Skype参加が 可能です。</p> <p>ご希望の方は 事前に寺子屋モデル までご連絡ください。 (参加費1,000円)</p> |

※お問い合わせ・見学希望・参加希望の方は、寺子屋モデルまで。弊社ホームページにも掲載しております。

TERAKOYA ふおとれぽーと

お宮、幼稚園、企業…寺子屋はあちこちで展開しています。「寺子屋」ってどんなところでしょう。ちょっとのぞいてみましょう。

1月18日(金) 高取保育園(福岡市)



当園は年中児も年長児とともに「偉人伝」を聴く。ヴェテランの認定講師朝長勇さんは一年の違いをいまさらながら感じたそうです。園児は病床上に伏した宮澤賢治が無理をして農民の相談に乗り、病状が悪化して死んでしまった話を食い入るように聴いていたそうです。「偉人伝」実演者が味わう臨場感です。



2月23日(土)・24日(日) 第14期「寺子屋の先生」養成講座 開講ゼミ



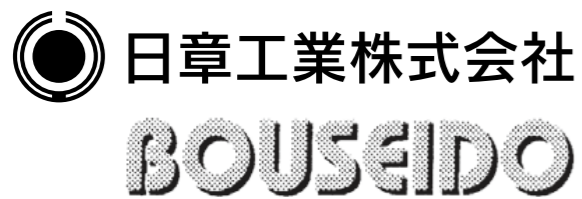
弊社独自の、寺子屋形式と偉人伝を一つにした養成講座も第1期から数えると11年目を迎える。卒業生(認定講師)も109人に上る。上の写真は開講ゼミ初日に基調講演をする弊社代表の山口である。下の写真は第2回目(3月9日)の養成講座における二宮尊徳に関連する文献(富田高慶著「報徳記」)の輪読風景である。



3月5日(火) 博多のびっこ幼稚園(宗像市)



今年度最後の「偉人伝」でした。認定講師の内山慶子さんが「一年間どうでしたか」と尋ねると、「楽しかったあ!」という声が返ってきたそうです。来月から一年生になる園児ですから、その成長は目を見張るものがある、津波の話には「こわい!」と言って顔に手を当てた子もいたそうです。下の写真は今に残る、濱口梧陵が築かせた堤防です。



私たちは高耐食性鋼製ドア「ボウセイド」、*無電源自動ドア「オートアゼロ」、非溶接工法「日章構法」など、鋼製建具メーカーとして環境建築の新分野に取り組んでいます。

*平成24年11月 大分道 山田SAにて施工完了(九州地区第1号)

日章工業株式会社 本社工場
〒811-2304 福岡県糟屋郡粕屋町大字仲原2813-1
Tel 092-611-0131 Fax 092-611-0133
E-Mail info@nissho-i.co.jp

日章工業株式会社 宮田工場
〒823-0006 福岡県宮若市上大隈字番給482-49
Tel 0949-33-3408 Fax 0949-33-3405

日章工業株式会社 宇美工場
〒811-2121 福岡県糟屋郡宇美町平和1丁目15-1
Tel 092-933-0322 Fax 092-933-4709

<http://www.nissho-i.co.jp/>

新しいオフィスを描いてみよう
快適なオフィスづくりをサポートする

Solution Partner



株式会社 レイメイ藤井

〒812-8613 福岡市博多区古門戸町5-15
Tel.092-262-2222 Fax.092-262-2290

<http://www.raymay.co.jp>

歌碑のころ(6)

作者(氏名は不詳)は遣新羅使に選ばれて那の津(福岡)まで到着し、いよいよ新羅を目ざして船出したが、糸島半島の東端に位置する唐泊で風待ちのためしばし滞在を余儀なくされている。そこからの景色を日々眺めつつ、心に浮かぶのは故郷に残した家族のことであった。

遣新羅使は白村江の戦(六六三)後に始まり、遣唐使と並んで奈良時代を通して度々送られた。大陸から半島に伝わった文物の吸収と共に、政治軍事情報の収集に当たった。

この歌の作者が参加した派遣団は天平八(七三六)年の夏に難波を出発し、瀬戸内海を西進するうち悪天候に襲われるなど難渋し(平成30年4月号参照)、筑紫の館に入ったのは出発から一月余りを経過してからだ。遣大使の阿倍継麻呂以下、この道中で多くの歌を詠み、『万葉集』巻第十五に収録されている。

左は唐泊で詠まれた別人の歌。

旅にあれど夜は火燭し居る吾を闇にや妹が恋ひつつあるらむ

(旅にあっても夜は灯火があつて不自由しない自分であるが、灯りのない家で待つ妻は心も闇で寂しく恋慕していることだろう)

当時と変わらぬ海と島影を望む高台に建つこの歌碑の揮毫は、紙塑人形作家で人間国宝だった鹿児島寿蔵(福岡出身)。彼はアララギ派の歌人でもあり、歌会始の選者を務めた。万葉から時を紡いで現代へと、歌の道は今も続いているのである。

(島)

編集余録

「寺子屋だより」第七十七号をお届けします。

秀吉が死を前にして、浪速のごも夢のまた夢といったと云われていますが、おぎやあと生まれてから今の今まで、時の流れの、なんと速かったことか。いや、一日がなんと速やかに過ぎて行くことか、驚かされます。

文学に音楽に絵画に優れた評論を書いた小林秀雄は晩年、命ほど大事なものはないと語りました。命がなければ仕事は出来ぬからです。僕にどれだけの時間が残されているか、無論わかりませんが、ただ何にもまして健康こそが仕事をなすに必要不可欠なものであることはよく承知しているつもりです。早く寝て健やかに目覚めることが善い仕事をする必須のことだと酒の飲めなくなった今だからこそ理解できます。

余録の余録⑧ — 教育界の苦悩

現在は実に多くの小中高生が塾に通っている。学校教師の子供もどこかの塾の生徒である。このことは学校教育に何か足りないから起こっているであろうか。わたしたちは塾に(そこには進学塾、学習塾といった違いはあるが)何を期待しているのであろうか。

ある県のある学区トップの高校に合格した生徒に聞いたことがある。きみが習っている中学校の先生は自分の担当の科目は入試で何点くらい採れると思うか、と。しばらく考えて、入試五科目ともだいたい七、八割くらいでしょうかと、その生徒は答えた。

中学校教師は担当科目の公立高校生入試問題、主な私立高校の入試問題を分析、とはいかなくとも、落ち着いて解いているのであろうか。二月頃に私立高校の入試が終わると、中学校の先生は公立高校に提出すべき内書の作成に時間がとられるとのことである。だから、私立高校入試後の授業は過去の公立高校生入試問題を生徒に配り自学をさせる。時間終了間近に教師は教室にやって来て解答を配る。そういう

こう書いてくると、若い人は老いた病人の言かと、読む気にもなれぬでしょう。しかし、こちらはきわめて新鮮な心持ちで書いています。浦島太郎の後悔は若い人への戒めです。残された時間がそう長いものではないことは体が日々教えてくれています。だからこそ、仕事に集注できるというものです。

五十代からの、殊に六十代の小林は、眼を見張る、充実した仕事をしています。集注の賜物です。福岡は昨日の二十一日に櫻が開花したそうです。毎年家族と見に行く、ちと遠方の櫻があります。これは山櫻です。ソメイヨシノより早く開花するので、もうその時期かと思っています。あと何年会えるかと、はやる気持ちがないわけではありませんが。

(廣木寧)

うことを聞いた。

学校教師が担当の学科を習得すべきことは大事なことです。学校には知育が期待されているからである。だが、それはどれほど大事なのであろう。

むかしこんなことがあった。――塾は三月を迎えて高校入試が終わろうとするときには、新中学一年生を何としても多く入塾させたいと思う。経営にかかわってくるからである。だから、小学校の卒業式の日に入塾教師は大挙して自塾のパンフレットを持ち、小学校の門前で配る。そこには複数の塾の教師があつまる。卒業式が終わってしばらくすると、門前近くはたくさん紙くずが散乱している。進学塾として有名な塾は自塾の生徒に(小学生の中には当然通塾しているものがある)、他塾のパンフレットは、もらえばできるだけ早く破り捨てるように教育しているからである。

塾の教育はこういうものである、とは言わないが、こういう傾向はあると思う。学校教育と塾のそれは別なものである。

(書)

寺子屋だより 平成31年4月号 (No.77)

発行日:平成31年4月8日
発行者:株式会社寺子屋モデル
印刷製本:祥文社印刷(株)

〒810-0022

福岡市中央区薬院1丁目15番8-904号

TEL:092-718-2080 FAX:092-718-2081

E-mail:info@terakoya-model.co.jp

ホームページ http://www.terakoya-model.co.jp

ご意見・ご感想をお待ちしております。

